

**CASBEE 広島 2016年版**  
**(仮称)広島駅前光町ビル新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.4</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40	<b>2.5</b>	0.40	
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能							-	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	2.0	0.20	
1.3 吸音		壁・天井にはロックウール、床にはタイルカーペットを設置				<b>5.0</b>	0.20	<b>5.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.4</b>	0.35	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.4</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.37		-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						1.0	0.30	1.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.3</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>
3.1 昼光利用						<b>4.1</b>	0.31	<b>4.2</b>	0.30	
1 昼光率		ロビーなど共用部はできる限り開口部を設置				<b>5.0</b>	0.58	<b>5.0</b>	0.60	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.42	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.29	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.14	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.26	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.6</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.4</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		仕上げ表参照(F☆☆☆☆を全面に使用)				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						<b>2.0</b>	0.30	<b>2.3</b>	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能							-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-		-	
2 喫煙の制御		ロビーは禁煙とし、客室は禁煙フロアと喫煙フロアを設置し分別				5.0	1.00		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.2</b>	0.40	<b>2.3</b>	1.00	<b>2.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>2.5</b>	0.60	
1 広さ・収納性							-	1.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		館内は100Mbit対応設備を使用					-	4.0	0.50	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-		-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>2.5</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30		-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.6</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用年数の高い花崗岩、金属パネルを使用				4.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長寿命が期待できるものを選択				5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		-	-	<b>1.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり		-	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	1.00		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>2.0</b>	0.40		-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	外壁部のロックウール吹付をt100とし、客室窓は複層ガラスとした	<b>4.2</b>	0.20		-	<b>4.2</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] : 0.95	<b>2.2</b>	0.50		-	<b>2.2</b>
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価		<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価		-	-		-	
4.1 モニタリング		-	-		-	
4.2 運用管理体制		-	-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>2.2</b>	0.20		-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>		<b>1.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>		<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>2.4</b>	0.60		-	<b>2.4</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		2.0	0.11		-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>		3.0	0.22		-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>	-	3.0	0.22		-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>	-	1.0	0.22		-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>		-	-		-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		3.0	0.22		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.7</b>	0.20		-	<b>3.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>		<b>4.0</b>	0.70		-	
1 消火剤		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	断熱材にはロックウールを使用しており発泡剤は使用しない	5.0	0.50		-	
3 冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	設備の省エネによって環境負荷に配慮した口	<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>2.9</b>	0.33		-	<b>2.9</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>	燃焼機器の使用なし	<b>5.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>		<b>2.7</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音		3.0	1.00		-	
2 振動		-	-		-	
3 悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		1.0	-		-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>		<b>3.0</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	